

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		24,882	t-CO <sub>2</sub>
（温室効果ガス削減換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		24,882

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）					%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	0.1687	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1683	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1705	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>		t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）			0.2	%	▲ 1.1	%	%	%
原単位当たりのみなし排出量					t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
削減率（対 基準年度）					%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度よりも夏季の平均気温が上昇したため、冷凍機の運転時間が長くなり、電力使用量が増加しました。電力使用量の増加に伴い温室効果ガスの排出量も増加しました。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
教育への取組み	環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく	環境問題への理解を深める科目を充実させる	全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目22科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにした。
学生活動への支援	学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsセンターとして学生のSDGsに関する活動を学内外に発信する</li> <li>学生が課外活動等の一環として行う自主的な環境に関する取り組みに対して、支援を行う</li> <li>国際交流機関や団体等において環境等に関するグローバルな取組み等について学ぶ機会を提供をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsセンターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供し、SDGsセンターHPやSDGs News Letterを通じて学生の取組内容を紹介した。</li> <li>学生の自治組織である名古屋市立大学学友会や各キャンパスの自治会が企画・発案した開学記念日一斉清掃に課外活動団体や学生、教員が参加した。</li> <li>優秀な留学生を受入、日本人学生と共修させることで、環境と健康の安全学領域に俯瞰的な視野を持ち、社会課題の解決に挑戦できる高度プロフェッショナル人材の育成を目的とした「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材養成と国際ネットワーク形成プログラム」に令和6年度は医学研究科から留学生2名、薬学研究科から日本人学生3名、理学研究科から日本人学生1名が参加した。</li> </ul>
学術研究の推進	生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する	生物多様性の保全に関連する研究や啓発活動を実施するとともに、環境分野における研究支援を行う	理学研究科では、名古屋周辺に生息するバッタ類や貝類などの標本を収集するとともに、絶滅のおそれのあるハヤブサ類についての研究成果を国際共著論文にまとめて公表した。名古屋圏に固有の植物の遺伝的位置づけを解明する共同研究を実施した。研究成果は、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと共催したシンポジウムで発表し地域還元した。また、環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信した。

地域社会等との連携	環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する	生涯学習等の展開の中で、環境に関連した教育・研究成果を市民へ還元するとともに、環境に関するイベントに参加し、市民の意識の向上に寄与する	SDGsセンターは、環境に関するシンポジウムや講演会を開催した。「なごや生きもの一斉調査2024 アメリカザリガニとエビ・カニ類編」や、「SDGs AICHI EXPO 2024」などのイベント参加、「第9回なごや生物多様性センターまつり」でブースを出展を行った。
環境負荷低減への取り組み	環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の削減に努める</li> <li>・温室効果ガスの削減に努める</li> <li>・自動車燃料の使用量の削減に努める</li> <li>・用紙使用量の削減に努める</li> <li>・一般廃棄物（感染性一般廃棄物を除く）の削減に努める</li> <li>・責任ある消費のもと、病院において排出する医療廃棄物（感染性一般廃棄物、感染性産業廃棄物及び非感染性産業廃棄物）について、適正な回収・処理を行い、資源の持続可能な管理に努めるとともに、感染性廃棄物による汚染を防止し環境負荷を軽減し、合わせて感染の防止に努める</li> <li>・新棟建設においては、断熱性能の向上や高効率機器の導入等に努めることで、環境に配慮した建物とする</li> <li>・救急災害医療センター建設にあたり、省エネ型機器やシステム等の採用に努めるなど、エネルギー消費の低減に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～9月の平均気温が前年度に比べて高く、熱源機器の運転時間が増加したことによりエネルギー消費原単位は、目標値より増加した。</li> <li>・昨年度よりも夏季の平均気温が上昇したため、冷凍機及び空調機（ガスヒートポンプ式）の運転時間が長くなり、電力使用量の増加に伴い温室効果ガスの排出量は、目標値より増加した。</li> <li>・自動車燃料の使用量は、市大病院においてドクターカーの運用等が始ったこと等により使用量が増えた。</li> <li>・用紙使用量は、目標値より低い値となり、削減できた。</li> <li>・一般廃棄物の量は目標値より低い値となり、一般廃棄物を削減できた。</li> <li>・5病院ともに、法令順守のもと廃棄物処理に係る規程に則り、適正に回収・処理した。</li> <li>・新棟建築において、環境に配慮した建築物としてBEI（基準一次エネルギー消費量）が0.5以下となるよう設計し、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）認証も取得している。</li> <li>・救急災害医療センターは、断熱性能の高い複層ガラスや地中熱利用空調システム等の省エネ機器やシステム等の採用に努めるなど、エネルギー消費の低減に努めている。</li> </ul>
物品調達	物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再利用の促進を学内に広く周知し、不要物品の有効活用を推進し、廃棄物の減量化を図る</li> <li>・古紙、びん、缶、ペットボトルの資源化率100%を維持しつつ、環境に配慮した取り組み周知を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各所属にて不要物品がでた場合は、再利用できる旨を学内へ周知して再使用希望者を募集し、不要物品の有効活用を継続して実施した。</li> <li>・古紙、びん、缶、ペットボトル資源化率100%を維持した。</li> </ul>
環境マネジメント	環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境報告書を作成し、広く社会に公表・発信する</li> <li>・SDGsセンターにおいて、学内・学外と連携し、本学の有する教育、研究成果等の資源を活用し、SDGsの達成に向けた活動を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度環境報告書を作成し、本学ホームページに公表した。</li> <li>・研究、教育、その他取り組みについて「SDGs活動レポート」としてSDGsセンターWEBサイトに公開した。</li> </ul>

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	24.3	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO <sub>2</sub>

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日
---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

• 擬音装置や節水こまの設置	• 両面コピー、裏紙利用等による紙使用量の削減
• 廃棄用紙の古紙リサイクル	• 事務用品、事務用機器等のリユース
• グリーン購入法に準じた方針の設定	• 屋上、敷地内緑化
• 通勤における公共交通機関の利用促進	• 学生、教職員等への環境教育の実施

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--